

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	押水町立相見小学校									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	1	1	2	1	1	10	14	
児童数	43	44	36	32	42	29	1	227		

研究の概要

1. 研究主題

『自ら学び自ら考える子』
算数科を中心にして一人ひとりが分かる喜び・できる喜びを味わう授業を目指して

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

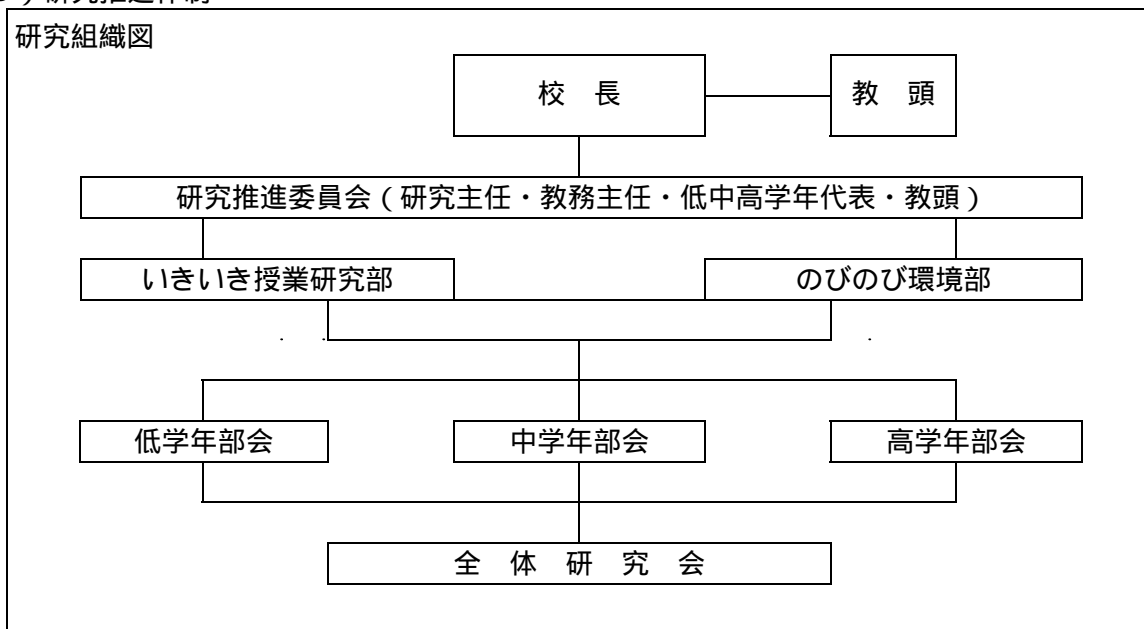
- ・全学年・算数
児童の理解状況に差がでやすいため、系統的に基礎学力の定着を図る。
問題解決の学習の仕方を身につける。
- ・3年・国語
これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から学力向上のため、きめ細かな指導で取り組む。
- ・6年・理科
問題解決の学習の仕方を身につける教科で、課題別指導や体験的な学習をする。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 習熟度別グループ編成による少人数授業による授業改善 研究の見通し 習熟度別グループ編成で個に応じたきめ細かな指導をする。 学習過程の工夫，評価を生かした指導の工夫で確かな学力の定着を図る。 発展や補充のための教材を開発する。 少人数授業教室環境を充実させる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全職員がきめ細かな授業に関わり，指導法を工夫し，学力向上を図る。 2 全学年で算数科の習熟度別の学習集団を編成し，少人数授業を展開する。 学習集団の編成方法や指導法の工夫を重ね学力向上のための効果的な指導を研究する。 1年は1学級を2グループに，2年・5年は2学級を3グループに，3・4・6年は2グループに編成する。 3 学習集団に応じた発展的な教材，補充教材を開発し，個に応じた指導を展開し，学力向上を図る。 4 朝の学習，放課後の補充学習により，基礎基本の徹底を図る。 5 学力の定着度を測る「評価」について研究を進め，指導に生かす。 6 指導法の改善をはかるため講師を招聘し，研究する。 7 学力向上に取り組んでいる先進校の研究発表会に参加する。また，他のフロンティアスクールと情報交換し，研究推進に生かす。 8 総合的な学習において，地域教材（自然，文化，歴史）の学習に学外の人材を活用する。体験的な学習と教科の関連性を図り，児童の実践力を育成する。 9 授業公開，学校報，学級通信，少人数便り，ホームページ等により，地域・P T Aの理解と協力を得るために，情報の発信に努める。 10 実践的研究成果を近隣の学校に広めるために公開授業を開催する。
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 指導と評価の一体化の改善と学力向上の工夫 研究の見通し コース設定・学習計画選択の工夫 評価規準に照らした評価の改善と評価の妥当性を図る。 数学的な考え方を伸ばすための指導法の工夫と学力の向上を図る。 発展や補充のための教材を充実する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全職員がきめ細かな授業に関わり，指導法を工夫し，学力向上を図る。 2 全学年で算数科の習熟度別の学習集団を編成し，少人数授業を展開する。 学習集団の編成方法や指導法の工夫を重ね学力向上のための効果的な指導を研究する。 3 学習集団に応じた発展的な教材，補充教材を開発し，個に応じた指導を展開し，学力向上を図る。 4 朝の学習，放課後の補充学習により，基礎基本の徹底を図る。 5 過程の学力と結果としての学力の「評価」について研究を進め，指導に生かす。 6 指導法の改善をはかるため講師を招聘し，研究する。 7 学力向上に取り組んでいる先進校の研究発表会に参加する。また，他のフロンティアスクールと情報交換し，研究推進に生かす。 8 総合的な学習において，地域教材（自然，文化，歴史）の学習に学外の人材を活用する。体験的な学習と教科の関連性を図り，児童の実践力を育成する。 9 授業公開，学校報，学級通信，ホームページ等により，地域・PTAの理解と協力を得るために，情報の発信に努める。 10 実践的研究成果を近隣の学校に広めるために研究発表会を開催する。
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・全体的に数学的な考え方の能力が弱かったので個の考えを大切にしながら多様な自力解決を保障し算数のよさを実感できるように指導することで算数学習の意欲を高めることができた。
- ・1学年の算数科においては，1学期はTTで学習意欲や態度を指導しながら数量の基礎学習をすすめた。2学期からは習熟度別の集団編成で個に応じた方法で基礎基本の定着を図ると共に数量に関心が高まるような学習計画を組み，算数への関心を高めることができた。

- ・低学年は基礎的事項・基本的内容の定着が顕著である。中学年は自力解決意欲や多様な考えを持てるようになった。
- ・高学年の算数科においては、個人差も大きかったが、放課後等においても習熟度に合わせた補充学習を工夫し、きめ細かな指導を行うことで基礎・基本の定着を図った。
- ・学年担任と少人数担当が習熟度別グループ編成による指導で、授業改善の意識を高めた。
- ・単元観点別評価カード（一時間ごとに評価規準に照らした指導と一体化した評価）で、指導の資料や学力評定の資料の累積ができた。

2. 今後の課題

- ・コース設定やグループ編成，指導計画など工夫し，基礎基本の定着を図り，学力向上を図る。
- ・評価規準の焦点化の見直しと関心・意欲・態度の評価を工夫する。
- ・補充教材・発展教材を開発する。
- ・他教科や道徳，総合などに生かす。

学力等把握のための学校としての取り組み

算数科の学力調査	全学年	5月：観点別領域別診断で研究の内容や方法の資料とする。また、個に応じたきめ細かな指導（補充・発展）の資料とする。
算数科の学力調査	全学年	2月：観点別領域別診断で5月の診断と比較することで研究の内容や方法について考察する資料とする。また、個の学力の資料とする。
少人数授業アンケート	全学年	学期に一回：意識調査をし，児童理解や授業実践に生かす。 内容 授業はよく分かるか 発言・発表がしやすいか 詳しく教えてもらえるか 少人数授業は楽しみか 力がついてきたと思うか 少人数の授業が増えたらいいか 友達と学び合いはできているか
少人数授業アンケート	全保護者	学期に一回：意識調査をし，保護者理解や実践に生かす。 内容 家庭で算数の話題がふえたか 算数が好きになったと思うか 算数に力がついてきたと思うか 家庭学習をするようになったか。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・指導主事要請授業研究会：5月，10月，12月，押水町立相見小学校 教職員対象
- ・学力についての研究会：7月28日 押水町立相見小学校 教職員対象 算数の学力をどう測るか，テストの構成要素と評価規準について，京都大学高等教育研究開発推進センター助教授松下佳代助教授を講師に事例研究した。
- ・学力向上フロンティア事業推進協議会での報告：11月20日 2月4日
- ・授業公開・中間発表会：2月17日，押水町立相見小学校
研究の成果を明らかにすると共に研究についての指導を仰ぐ。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|------------------------------------|------------------------------|--------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | ・ 1 5 年度からの新規校 | 1 4 年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6 学級以下
1 3 ~ 1 8 学級
2 5 学級以上 | ・ 7 ~ 1 2 学級
1 9 ~ 2 4 学級 | | |
| 【指導体制】 | ・ 少人数指導
一部教科担任制 | T . T による指導
・ その他 | | |
| 【研究教科】 | ・ 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | ・ 算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ・ 有 | 無 | | |